

研究計画書

|        |   |      |       |
|--------|---|------|-------|
| ゼミ名    | 青木・稲田ゼミⅡ  | チーム名 | あおぼんだ |
| タイトル   | アフターコロナの観光戦略  |      |       |
| テーマ群   | d)国際経済 e)産業・企業  |      |       |
| メンバー   |   |      |       |
| 研究計画内容 | <p><b>研究背景；</b></p> <p>昨年まで、観光産業は自動車産業に次ぐ、日本で 2 番目の輸出産業であった。しかし、2020 年 2 月以降、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各国政府は入国制限の措置をとった。ここから、日本を訪れる外国人観光客が大幅に減少し、観光産業は大打撃を受けた。それは、訪日外国人の観光消費を頼りにしすぎていたためである。今回のコロナ騒動により、持続可能な観光形態への転換が求められることとなった。一方で、これまでの観光戦略を見直す時間も与えられた。そこで、新型コロナウイルスが収まった際の新たな観光戦略を打ち出す必要性があり、研究したいと考えた。</p> <p><b>研究内容；</b></p> <p>まず初めに、コロナ以前の日本に焦点を当てる。(1)日本人と訪日外国人、それぞれの観光消費・行動を調べ、国ごとの傾向を探る。ここでは、アメリカ・中国・韓国を取り上げ、比較する。次に、(2)訪日外国人が急増したことにより浮かび上がってきた問題を、ブランド力・周遊性・イノベーション、これら 3 つの観点から明らかにし、コロナ禍後に重視しなければならない問題(安心・安全・安堵の面で)を明確にする。その後、(3)現在行われている政府の政策である Go To キャンペーン事業は、この問題を解決できる内容なのかを検証する。以上の事柄を考慮した上で、課題を解決できる長期的な政策を考える。</p> <p><b>得られる効果；</b></p> <p>現在、観光産業が直面している課題を探り、新たな解決案を考えることで、ポストコロナ禍の持続可能な観光戦略を示すことができる。また、この観光戦略により、政府の政策効果との比較が可能となる。この研究を通して、現状分析力・思考力・考察力が身に付く。</p> |      |       |